

**製品名: SESN2 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe02589**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル抗体
形態	液体
濃度	0.8mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:1000, ICC/IF 1:50-1:200, IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 54 kDa; Observed MW: 54 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SESN2
別名	HI95; SES2; SEST2
遺伝子 ID	83667
SwissProt ID	P58004
免疫原	ヒト SESN2 の組み換えタンパク質

**背景**

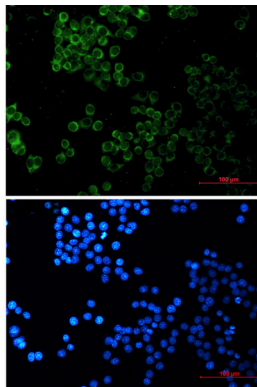
細胞内ロイシンセンサーとして機能し、GATOR 複合体を介して TORC1 シグナル伝達経路を負に制御する。ロイシンが存在しない場

合には、GATOR サブ複合体 GATOR2 に結合し、TORC1 シグナル伝達を阻害する (PubMed:18692468, PubMed:25263562, PubMed:25457612, PubMed:26449471, PubMed:26612684, PubMed:26586190)。SESN2 へのロイシンの結合は、GATOR2 との相互作用を阻害し、TORC1 シグナル伝達経路を活性化する (PubMed:26449471, PubMed:26586190)。このストレス誘導性代謝調節因子は、酸化ストレスおよび遺伝毒性ストレスに対する防御においても役割を果たす。小胞体ストレスに対するタンパク質翻訳を TORC1 を介して負に制御する可能性がある (PubMed:24947615)。SQSTM1 を介した KEAP1 のオートファジー分解を促進することで、NFE2L2 による酸化ストレス応答に関する遺伝子の転写を正に制御する可能性がある (PubMed:23274085)。また、遺伝毒性ストレス下での TORC1 シグナル伝達に対する TP53 阻害を媒介する可能性がある (PubMed:18692468)。タンパク質の N 末端ドメインにアルキルヒドロペルオキシド還元酵素活性を有する (PubMed:26612684)。当初は PRDX1 を還元することで酸化ストレス耐性に寄与すると報告されていた (PubMed:15105503)。しかし、これは確認されていない (PubMed:19113821)。

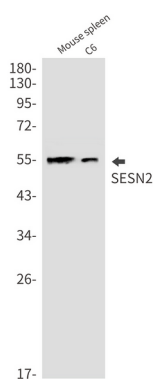
## 研究分野

心血管系

## 画像データ



SESN2 抗体と DAPI (青) を使用した HeLa 中の SESN2 (緑) の免疫細胞化学分析。



SESN2 抗体を使用したマウス脾臓 C6 溶解物中の SESN2 のウエスタンブロット分析。

SESN2 抗体を用いた K562 ライセート中の SESN2 のウェスタンブロット分析

